

---

# インシデントレポートから見る 職種別レポートの考察

## —リハビリテーション部からの報告事例—

---

自治医科大学附属さいたま医療センター  
亀森康子・遠山信幸・水上由美子

# はじめに

- インシデントレポートの有効活用は統計分析と個別症例への介入による改善である。
- リハビリテーション部のレポートに介入し、多職種間における情報共有の重要性とコミュニケーションの大切さを再認識した。

# 自治医科大学附属さいたま医療センター

病床数	571 床
外来患者	1252 人/日
入院患者	414 人/日
医師	319 名
看護師	591 名
医療技術系職員	148 名
事務系職員	86 名

# 職種別インシデントレポート (平成21年度)

職種	報告数
看護部	13136
医師	702
薬剤部	92
放射線部	82
臨床検査部	59
栄養部	52
臨床工学部	47
リハビリ室	42
歯科衛生士 視能訓練士	12
事務部門	7
合計	14232

# 当センターの傾向

- レポート総数は年々増加している。
- 医師・看護師からの報告が大半を占める。
- 医師・看護師を除く医療従事者からの報告数は少ない。
- 数少ないレポートにも医療安全管理室が介入すべき重大な問題が潜んでいる。

# リハビリテーション部からの報告

## ➤ 患者

- ・74歳の男性、ICU管理中の術後患者
- ・冠動脈バイパス術

## ➤ 経過

- ・6/11 手術後にICU入室
- ・6/18 ICU主治医の指示によりリハビリ開始  
(理学療法中の異変なし、座位練習中)
- ・6/28 人工骨頭置換術の既往に気付く  
**脱臼肢位に対する配慮の欠如**

# リハビリテーションの申し込み手順

## ➤リハビリオーダー入力項目

1)術式

2)リハビリの目的

3)ゴールの設定

4)禁忌・注意事項

フリーコメント入力

\* 今回の依頼には、

**人工骨頭置換術後のコメントなし**

# ヒアリング実施

- 医師・看護師は人工骨頭置換術後患者のリハビリ上の注意事項を知らなかった。



**人工骨頭置換術後のコメントを入力せず**

- 理学療法士は既往歴と他院での手術歴の電子カルテ上の記載場所を知らなかった。

# 取り組み

- 医師  
リハビリ依頼時の既往歴・手術歴の入力徹底
- 理学療法士  
電子カルテから既往歴・手術歴の情報収集
- リハビリテーションカンファレンス  
今回の事例の情報共有
- センター全体への周知  
医療安全管理委員会・  
医療安全推進担当者会議  
RM news letter

# 介入の効果

- 介入後に同様のインシデント報告が無くなった。
- リハビリテーション部からのインシデントレポートがセンター全体として認識された事実から、医療安全推進担当者から積極的な発言が得られるようになった。

## ＜インシデントレポートの有効活用の原点＞

- 現場への速やかなフィードバック
- 安全管理マニュアルへの反映
- 多職種間での連携と継続教育

# 結論

- リハビリテーション部のインシデントレポートに基づいて介入を行った結果、多職種間のコミュニケーションが円滑になり、情報共有能力が高まった。